TARO SEKIGUCHI RACE REPORT 2023

SANMEI Team TARO PLUSONE

SUPERBIKE RACE in MOTEGI

All JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2023 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第1戦

■ 栃木県 ■ モビリティリゾートもてぎ ■ 1周= 4.801379km
■ 4月1日（土） 天候：晴れ コース：ドライ ■ 4月2日（日） 天候：曇り コース：ドライ

JSB1000 #9 関口 太郎

■ マシン / BMW M1000RR
■ タイヤ / BRIDGESTONE

RACE 1	予選 11番手（タイム：1分 49秒 779） 決勝 15位
RACE 2	予選 12番手（タイム：1分 50秒 269） 決勝 8位

J-GP3 #29 高平 理智

	予選 16番手（タイム：2分 03秒 174） 決勝 21位

観客動員数：8,600 人（2 日間合計）

マンマル　萬福　三明電気工事　SANYU　KAWAFUL TECHNO　FUJITA　Fujimoto Electric Industry

BMW　M
府中不動産　ファミリーロッジ 旅籠屋 はたごや　WillWay e-Beluga　Burgundy Auto Paint & Bodywork Specialist　YONE MOTORS https://www.yonemotors.jp　BRIDGESTONE
SUPER NOW　J・TRIP　S&E PRECISION　RACING MAX　BEEPRESSO　alpinestars　功和興業　HYOD Motorcycle CS2　dARI　2りんかん　リンテックサイシステム株式会社　SOG　バイク館 YellowHat
DESIGN　ADVANTAGE　SHORAI　RK TAKASAGO CHAIN　NGK SPARK PLUGS　Pro　INOMATA　Arai HELMET　RACING WIND JAMMERS　PLUS μ Brake Factory　TCM　MDF　RCS　elf　ARAI　FIXFIT　Team PLUS ONE

TARO SEKIGUCHI RACE REPORT 2023

SANMEI Team TARO PLUSONE

2023年シーズンの全日本ロードレース選手権シリーズが栃木県・モビリティリゾートもてぎで4月1日（土）・2日（日）に開幕した。JSB1000クラスで4年目を迎えるSANMEI Team TARO PLUSONEは、チーム代表兼ライダーの関口太郎を中心に昨年と同じメンバー、そして2年目のBMW M1000RRで上位を目指す。

また、幼少のころから、その成長を見てきた高平理智（リーチ）・14 歳を全日本 J-GP3 クラスにスポット参戦させる。これはリーチが今年のアジアタレントカップのライダーに選ばれたが、開幕戦が８月ということもあり、全日本の前半戦にエントリーする。

昨年 12 月のテストで転倒し右手親指とヒザを骨折。ギブスをつけたまま年を越し、1 月下旬にピンを抜き、リハビリをしつつシーズンインの準備に勤しんできた。3 月に入ってからサーキット走行を開始し、右手の状態を確認。前週に行われた事前公開テストは、まずエンジンの慣らしから行い、２本目に今シーズンから導入されるカーボンニュートラル燃料（以下 CN 燃料）を投入し、その特性を初めて体感するが、２日目は冷たい雨に見舞われマシンセットを進めることができずにレースウイークを迎えていた。

開幕戦は、木曜日の特別スポーツ走行から始まった。天気も安定し全セッション、ドライコンディションで走ることができたこともあり、マシンのセットアップは順調に進んだ。昨年は、手探り状態だったが、M1000RRを1年走らせた経験が大きく、CN燃料に対応しつつ車体のバランスはいい状態だった。

土曜日の公式予選でもセッション序盤にニュータイヤを履き感触を確かめ、足回りのセットを詰めると、セッション終

盤に2セット目のタイヤでタイムアタック。1分49秒台に入れ自己ベストを更新。レース1は11番手、レース2は12番手と共に4列目グリッドからスタートすることになっていた。

全日本デビュー戦となったリーチは、予選で16番手につけポイント獲得を目指したが、決勝では、スタート直後の3コーナーでオーバーラン。最後尾から追い上げ経験値に勝るライダーとバトルを繰り広げる。目標には届かなかったものの、今回のレースで多くのことを学ぶことができたと語る。まだ14歳。中学生ライダーの将来に期待してください。

M1000RR と共に、さらなる上位を目指す！

Team TAROから全日本に出させていただけることを、まずは感謝いたします。予選までの流れはよく、速いライダーの走りを見て、すごく勉強することができました。1周目の3コーナーで行き場を失い、ブレーキをかけたらジャックナイフになってしまいまっすぐいってしまいました。最後尾まで落ちましたが、そこから追い上げていけましたが、ポイント圏内には届きませんでした。次回のSUGOは、初めて走ることになりますが、楽しそうなコースなので今度こそポイントを獲れるように頑張ります。

高平 理智

15周で争われたレース1。スタートは、まずまずだったが、前のライダーをなかなか抜けずにいたところ、4周目に前を走っていたライダーがエンジンブローし白煙を吹く。赤旗が提示されるかと思ったが、そのままレースは続行。抜きあぐねていたライダーとの差を詰め7周目の1コーナーから2コーナーで前に出る。しかし、その3周後辺りからマシンに異変が起きてしまう。ハンドルが緩んでしまうトラブルが発生。周りに迷惑をかけないようにポジションを落としながらもハンドルの状態を確認。アクセルをうまく開けられない状態だったが、何とかポイント圏内をキープ。15位でチェッカーフラッグを受け1ポイントを獲得した。

レース2では、好スタートを決めると前でアクシデントがありオープニングラップを終えたところ7番手。トップグループも見えており、追いついてワンパックに入りたいという思いもよぎったが、リスクもあるため自分自身のペースをキープ。中盤に追い上げて来た清成選手にかわされるが8位とシングルフィニッシュを果たした。

まずは2023年シーズンのスタートが切れたことをスポンサーの皆さん、応援してくださっている皆さんに感謝いたします。開幕戦としては上出来だったと思います。ケガからの復帰、CN燃料に対応しなければならないことや事前公開テストで満足に走ることができていない状態でしたが、レースウイークでうまくまとめられました。これもチームスタッフが頑張ってくれたおかげです。次戦、鈴鹿2&4レースに向けてもいいレースになりました。今回からCN燃料が導入されましたが、BMWは、全くデータがないので、エンジンが壊れないように毎セッション、オイル交換をしました。チームへの負担は大きく、実際にレースウイークでエンジンブローしたマシンもありました。しっかりテストを行い安全が担保されてからレースをすべきだと思います。アクシデントが起きてからでは遅いですから。

関口 太郎

このリリースへのお問い合わせは右記メールアドレスまでお願いいたします。E-mail：tarosekiguchi@gmail.com